

健康はこだて21（第2次）後半の取り組みについて

平成29年度に実施した中間評価の結果や健康に関する統計などから、明らかになった課題を踏まえ、健康はこだて21（第2次）（以下「計画」という。）の目的である市民の健康寿命の延伸および現行の計画で設定している目標の達成に向けて、計画後半において下記の重点取組を定め、関係団体と連携し、市民の健康づくり施策の一層の推進を図ります。

1 中間評価での主な課題

- ・がん検診の受診率が低い。
- ・女性の喫煙率が高い。
- ・若い頃からの規則正しい生活習慣の定着をより推進する必要がある。
- ・身体活動・運動習慣のある人が少ない。
- ・高齢期の指標の改善が進んでいない。

2 平均寿命と健康寿命

平均寿命、健康寿命ともに、全国平均、全道平均より低い状況にあります。

3 国の基本方針や北海道の健康増進計画の改訂状況等

平成30年8月に公表された国の基本方針「健康日本21」の中間評価や、北海道の健康増進計画「すこやか北海道21」の改訂においてわずかな指標の変更はあるものの、目指す方向性は基本的に同じであったことから中間評価の結果を踏まえ重点的に取り組む内容等を明らかにし、今後、各種施策を進めることといたしました。

4 計画後半の取り組み

死因の第1位であるがんの対策、がんをはじめとする数多くの疾患の原因となるたばこの対策、将来の健康寿命の延伸および介護予防のための若い頃からの健康づくりを推進することにより、健康はこだて21の目的である市民の健康寿命の延伸を図ります。

計画後半の重点取組

- (1) がん対策の推進
- (2) たばこ対策の推進
- (3) 介護予防事業との連携（若い頃からの健康づくり）

(1) がん対策の推進

悪性新生物（がん）は、全国的に死因の第1位であり、がんによる死亡数は人口の高齢化に伴い増加しており、生涯のうちに約2人に1人が罹患すると推計されています。高齢化など年齢構成の変化の影響を取り除いたがんの死亡率において、本市は全国平均を上回っている状況です。

また、本市のがん検診受診率は全国と比べ低い状況であり、本市の平均寿命・健康寿命の短さの一因と考えられることから、確実にがんの早期発見・早期治療につながるがん検診の受診率向上などの対策を推進します。

表1 函館市の死亡数が多いがんおよび標準化死亡比（SMR）

区分	男性			女性		
	部位	死亡数	SMR	部位	死亡数	SMR
第1位	肺	1,498	124.8	大腸	782	138.6
第2位	胃	867	112.3	肺	645	121.1
第3位	大腸	795	137.1	膵臓	495	133.1
第4位	肝臓	515	103.7	胃	467	101.1
第5位	膵臓	439	126.4	乳房	367	112.6

（平成18年～平成27年 市町村別標準化死亡比（北海道健康づくり財団））

標準化死亡比（SMR）

年齢構成が異なる地域の死亡率を比較するための指標であり、全国平均の死亡率を100（基準値）としており、基準値より大きい場合は全国平均より死亡数が多い事を表している。

表2 平成28年度 がん検診受診率

区分	胃	肺	大腸	子宮	乳
函館市	3.3%	3.8%	3.1%	12.2%	13.5%
北海道	8.8%	4.8%	6.3%	14.3%	16.6%
全国	8.6%	7.7%	8.8%	16.4%	18.2%

（地域保健・健康増進事業報告（厚生労働省））

ア 継続

- (ア) 生活習慣改善による発症予防の周知・啓発
 - ・イベント，出前講座等による普及，啓発
 - ・小学校・中学校におけるがん教育
- (イ) がん検診の受診勧奨・受診環境の整備
 - ・けんしんカレンダーの全世帯配布
 - ・大腸がん検診の受診勧奨ハガキ郵送
- (ウ) がん検診の重要性の普及，啓発
- (エ) 乳がん検診（40歳），子宮頸がん検診（20歳）の無料クーポン券および啓発冊子の郵送

イ 新規

- (ア) 「函館・道南がん対策応援フォーラム」の参加団体と連携したがん検診の重要性の啓発および受診勧奨
- (イ) 拠点病院等に設置され、がんに関する疑問や不安の相談窓口となっている「がん相談支援センター」について、ホームページやイベントなどでの情報発信
- (ウ) 受診を後押しする個別の受診勧奨
 - ・過去の受診者のうち直近3年未受診者への受診勧奨
 - ・前年度受診者への大腸がん検査キットの郵送
- (エ) 様々な機会や関係機関と連携した受診勧奨
 - ・子育てアプリGrucco（グルッコ）を活用したがん検診情報発信
 - ・ピロリ菌検査案内時の中2保護者への受診勧奨
 - ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査回答者への啓発
 - ・函館生命保険協会等と連携したチラシ配布
 - ・協会けんぽ被扶養者への受診勧奨

(2) たばこ対策の推進

喫煙は、肺がんなどの多くのがん、循環器疾患、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、胃・十二指腸潰瘍、歯周病など様々な病気の原因となり、メタボリックシンドロームや糖尿病の発症リスクを上昇させることが明らかになっています。また、非喫煙者にも、受動喫煙により肺がん、虚血性心疾患、乳幼児の喘息、乳幼児突然死症候群（SIDS）等の原因となり健康に大きな影響を及ぼします。

本市の喫煙率は、男女ともに全体としては減少してきているものの、女性の喫煙率は全国平均を上回っており、目標値達成には不十分な状況であることから、喫煙率を低下させるため、時期を的確に捉えた周知・啓発の取り組みを推進します。

また、健康増進法の一部改正に伴い、市民・事業所等への受動喫煙防止対策を推進します。

表3 平成28年度 喫煙率

区分	男性	女性
函館市	28.6%	13.1%
北海道	34.6%	16.1%
全国	30.2%	8.2%

(市民の健康意識・生活習慣アンケート調査)

ア 継続

- (ア) 喫煙が及ぼす健康への影響の普及，啓発
- ・ 未成年者喫煙防止講座（たばこフリーキッズ）
 - ・ 母子健康手帳交付時や乳幼児健診などの機会を通じてのリーフレット配布
 - ・ 子育てサロンや幼稚園等子育て世代に向けての出前講座
 - ・ 町会や事業所向けの出前講座
 - ・ 禁煙相談および禁煙外来医療機関の情報提供
 - ・ 特定保健指導における禁煙指導

イ 新規

- (ア) 健康増進法改正に伴う「望まない受動喫煙防止対策」の推進
- ・ 市民・事業所への改正法の周知・啓発
 - ・ 違反者への指導，勧告，命令
 - ※ 今後通知される政省令等に基づき対応
- (イ) 「函館・道南がん対策応援フォーラム」の参加団体と連携した受動喫煙防止対策の啓発
- (ウ) 協会けんぽと連携した禁煙の啓発
- (3) 介護予防事業との連携（若い頃からの健康づくり）

健康寿命の延伸を実現するためには、生活習慣病の予防とともに、社会生活を営むための機能を高齢になっても可能な限り維持することが重要ですが、これは若い頃からの食生活や運動など日々の生活習慣の積み重ねが影響します。

本市においては、若い頃からの望ましい生活習慣の定着が不十分なこと、身体活動・運動習慣のある人が少ないこと、高齢期の指標の改善が進んでいないことが課題となっており、これらの課題が本市の健康寿命が全国、全道の平均よりも短いことの一因となっていると考えられます。

生活習慣病および介護予防による将来の健康寿命の延伸のため、「第2次はこだてげんきな子 食育プラン（函館市食育推進計画）」に基づく、こどもの頃からの食育推進事業と整合性を図りながら、市民全体へ健康づくりの機会や各種健康情報を提供する機会を拡充するとともに、さらなる介護予防との相互連携事業を通じて、若い頃からの健康づくりを推進します。

表4 平成28年度 運動習慣のある人（20歳以上）の割合

区分	男性	女性
函館市	29.0%	24.4%
北海道	36.4%	30.6%
全国	35.1%	27.4%

（市民の健康意識・生活習慣アンケート調査）

表5 中間評価において計画策定時より悪化した主な高齢期の指標

<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣のある人の割合 ・日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上行っている人の割合 ・喫煙する人の割合 ・進行した歯周炎を有する人の割合 ・がん検診を受けた人の割合（胃がん，肺がん，子宮がん）
--

（健康はこだて21（第2次）中間評価）

ア 継続

- (ア) 健康づくりプロモーション事業
（「ヘルスアップはこだて in Gスクエア（仮称）」（2019年度））
- (イ) 市民健康づくり推進事業
 - ・未成年者飲酒防止講座
 - ・働く世代の健康づくり
 - ・女性のための健康づくり
 - ・地域の健康づくり
- (ウ) 食育推進事業
 - ・「はこだてげんきな子 食育プラン」概要版の配布（小学校新1年生等）
 - ・食育月間，食生活改善普及運動月間での周知啓発
 - ・食育教室における啓発事業の実施（離乳食教室，認定こども園等）
 - ・食育推進協議会構成団体との連携事業の実施
 - ・ヘルスマイト（食生活改善推進員）の育成
- (エ) 歯科保健事業
- (オ) 健康増進センター事業

イ 新規

- (ア) 子育てアプリGrucco（グルッコ）を活用した子育て世代の健康や食育の情報発信
- (イ) 健康づくりおよび介護予防関連イベントにおける相互連携
- (ウ) 「はこだてFOODフェスタ」での健康・食育PRブースの設置
- (エ) 介護予防活動に取り組む町会や老人クラブ等への栄養士派遣による低栄養予防の普及・啓発
- (オ) ウォーキング講座「公園すこやかウォーキング+（プラス）！」
（市内6公園のウォーキングマップ作成，ウォーキング，エクササイズ，低栄養予防講習等の実施）